婦人と勞働

七月號



涼味……

送風装置の完全な設備のある高島屋は、夏の蒸暑い日でも、すがくしい清涼の空氣で滿ちて居ります。氣持のよいデパートメント、ストアーです。

もし八階屋上の展望所へお越し遊ばせば涼風颯々として、またない眺めです

——ソーダ水ホール（八階に）——

お中元の御贈答品◆◆

あらゆる御進物品◆◆

御進物御相談承り所

當店三階に「御進物御相談承り所」を設けました。御便利にお氣に入つた品を御撰擇申上げます。

◇大阪全市 小學兒童寫生畫展覽會…（七月中旬）

婦人と勞働（七月號目次）

レーニンの二名著

革命家政治家としてのレーニンは廣く知られてゐる。しかも博識深刻なる學者としてのレーニンを知ることは更に必要である。本二書は共に諸學說諸統計を縱橫に驅使して、所與の問題を明快に解剖したるものにして、彼の著作中において最も學問的光彩に富めるものである。科學者としてのレーニン、マルクス主義理論家としてのレーニンは、此二書の間に求めることができる。

資本主義最後の段階
としての
帝國主義
青野季吉譯
定價二圓・送料十八錢

レニンは本書に於てブルジョア學者の告白とブルジョア統計の報告とを用ゐて資本主義最後の階段としての帝國主義の本質を闡明し社會主義經濟への進化の必然性を說いてゐる本書によつて現代國家の經濟的基礎と國家鬪爭の歷史的意義とを明確に知ることができる。

資本主義展開期
における
農村問題
大木陽一郎譯
定價一圓五十錢・送料十二錢

この書はレーニンが農業問題の研究に沒頭してゐた時期に書いた論文で一九〇五年革命前後のロシア農村關係を詳細に解剖し農業における資本主義發展の經路を敍し農村變革の必然を論證したもの。本書によつて日本における農村問題の研究方法を學ぶことができる。

東京市外代々幡・幡ヶ谷三四
希望閣
振替東京六七五一九

婦人と勞働



第二卷第四號

生きるもの丶權利

私たちは叫ぶ、
私たちは何時までも暗い倉庫のなかに下積みにされて默々と眼を瞑つてゐるやうな物品ではない。貨車の底に下積みにされてうつちやらかされて停滯してゐる荷物ではない。
私たちには魂がある。熱い呼吸が通つてゐる。
肉體は生きんとしてうごめく。
だから反逆もする。よろこんで苦闘に生きようともする。　握手もする！
一個の生きるもの丶權利として、これまで、私たちに何があつたか？
風辱か、　奴隷か、　生命の空虛か！
女は何故人間であつてはいけないのか？
眼を醒ませ！　集まれ！
私たちが僭越にも號令しようとするのではない。
私たちの生命がさう叫ぶ。
生きるもの丶權利――それは何んだ。虐げられたもの丶權利――それは何んだ。言はずとも知れてゐる！

聰明な奧樣、下層婦人の人格

千葉龜雄



いくらか目覺めたと目ざゝれる家庭の細君でも、どうも家の女中は無學でといふ。無知でといふ。子供などは安心して任せられぬといふ。曰く何、曰く何。さも特權と知識の卸し屋のやうな顏をして話される。が、私は女中の爲に代言する。無學だから、無知だから、或は御人よしだからこそ、こんな馬鹿々々しい女中奉公などもして居るのだと。と言つて、女中奉公も、もとより立派な獨立した職業である。肉を賣つてせいたくな暮しをする職業婦人などは、とても追付けない神聖な職業てはある。が、だ。わが國の「女中」といふ名で習慣づけられたやうな、奴隷的な「女中」であることは溜らないといふのである。それが無知だから、こんな奧樣の屈辱にも廉い給料で奉仕して居られる譯なのである。もし少し人格の自由を欲するものならば、給料の問題などは別にしても、獨立した、もつと自由な職業の方をえらぶてあらう、もとより現代のような大資本主義の世の中に、何ほどかでも、人格と生活の侮辱なしに生活をすることは、男女兩性にとつて、共に難儀な仕事である。それでも、男性のやうに、家族の負擔のない女性達は、猶ほ金と自由とを秤にかけられた時に、最少限ででも自由の添へてある方を擇ぶであらう。ましてや、金だつて、その勞力に比して酬ゐられるものが極めて少なかつたら、なほさ人格の自由が多少でも得られて、それて金になる方を擇ぶ

てあらう。近頃の家庭の女中難は、即ちこの一部の傾向を明らかに語るものでなくて何であらう。

また、たとへば無知であり、無學であると目の讐のやうにして云ふその夫人達が、一體どれほど有知であり、有學であるかを知らない。が、彼れ等女中達がたとへ無學であり、無知であるとしても、それは決して彼等が好んで擇び取つた禍ではないのだ。奥様だちは、幸ひに餘裕のある生活の家庭に生れて、學問をしただけの事である。その學問がどれほどの容積を持ち、またどれほど實生活に役立つて居るかは名譽の爲に問はないとして、要するに機會が不平等なだけの話であつて、そこに二人の間に本質的に何の相違もある譯が無いぢやないか。だから、もし、社會經濟の法則に何ほどかの意識を持つ婦人達ならば、その無知も、無學も、氣の毒な廻り合せだと思ひ、「女中」の無學や無知を、クラブの會話の主題にするやうな、薄情と無知は即刻止めるがよい。そして、自分等が偶然に與へられた機會に感謝すると共に、その機會から獲られる幸福を、何ほどかでも彼等不幸なものに頒ち與へるだけの聰明があつて欲しい。

何故に、女中難が降つて湧いたやうに、近頃の傾向になつたかと怪しむなかれ。勞働するその人々が勞働の價値に目が覺めて來たからだ。彼等は勞働價が安いならば、代りに人格價を高く買はれやうとする。人格價が安いなら、勞働價を高く買はれねば引き合はない。肉を賣る或る種の階級が、人格價を法外に割引してなほ安心して居るのは、一方で、勞働價をより高く獲得る代償といはねばならぬ。然るに今日までの女中制度は、その人格價と、勞働價と二つ合せて、なほ今日の經濟單價には氣な毒なほど低い階級に居る、女中拂底はそこで豫定の事實なのである。が、その事情の變遷を考へずに、どこまでも舊制度で押し付けやうとする。或は强迫されたやうに多少勞働價をひき上げても、元々、自覺から起つたものではないから、そこ

て極端な勞働價を要求しやうとする。これがいはゆる知識あり、學問ある夫人達なのだからやり切れない。が、女中になる人が必ず無學であり、無知であり、多くの勞働婦人が知識あり、修養があるかといふと決してそうでは無い。一般に、普通敎育の廣く行はれる我國では、女性だつて皆なが皆な無學なわけではないけれども、女性の職業を採ることがます／＼多くなるにつれて、無學な婦人達が生活のために職業に入るものゝ多くなることは、よほど研究せねばならぬ問題である。たとへば、文明になるに從つて、ます／＼數が少なくなるべき筈の密娼や藝妓などが、逆比例に多きを加へて來る。そして統計の示すところでは、密娼も公娼も、その鄕里は敎育程度の比較的ひくい地方の農家に多く、また小學敎育すらも、或は受けて居ないものが多分を占めるといふ。また全國何十萬人と數へられる纖維工場の女工の敎育標準を見よ。何人も多少の感慨を見ずには止まぬであらう。彼等が人格や貞操といふものに關する觀念の氣の毒なほど乏しいのなども、その無敎養によることの多いことは、こゝでも考へなければならぬであらう。

いな、單に、そうした或る種の職業婦人や、女工のみに限る話では無い。近代の婦人職業時代の謳歌と、その歡迎は、わり合ひに手安く婦人をしてそれぞれ似合ひの職業につかしめる。そしてそれには必ずしも、高い敎養を要しない機械的な職業も多い、然るに近代の中流階級の經濟的疲弊の度は、大資本主義時代の共通理として、加速度で進んで行く。てなくてさへ、我國における女性と男性の敎育率は、比べものにならぬほど少ないのに、まして中等階級などでは、小學校以上の敎養を娘達に受けさせることが覺束ない。と、いつて、私は何も學問萬能論ではないが、敎養の有るものが、無敎養者より、生活率に危險のないのは事實上の公理である。そこでそうした職業婦人が、一たび賃銀の收得といふ事に目をつけると、またその收得によ

つて、女性の慾望である裝飾の憧憬も起る。果ては收得の方にだけ興味を感ずる結果は、人格を賣つても猶を收得を殖し、安樂な生活を營なまうとする。それに近代の文明組織は、さうした享樂を刺激するやうないろ／＼な機關に富んで居る。またわが國のやうに、男女七歳にして席を同じうしなかつたほど、兩性の接觸が八釜しかつた國が、極端に兩性共同の職業を採るやうに解放されたとあつては、さうした性的頽廢の一般に起るのもまた止み得ない一傾向でもあらうか。

けれども、無敎養の影響がそれだけの、範圍に止まるといふなら、まだジヤアナリズムの食餌として看過されもしやう。たゞ、すべての無敎養が、純眞な勞働婦人そのもの〻幸福を、どれほど虐げ、停滯させて居るかを考へて來れば、それは決して等閑には過して居れぬ重大問題なのである。

思ふに、わが國多數の男性は、近代女性の覺醒といふものに對して、決して暖かい同情をもたぬ。むしろ何やかといろ／＼缺點を見付げて來ては、或は嘲弄し、或は非難し、或は侮蔑の種にする。なぜなら、女性の男性に對する反逆は、男性が今までわがま〻に揮つて居たところの、男性萬能の權力を揮ふことが出來なくなることてある。そして男性の權力が縮少され、拘束される事になるからてある。また男性が女性の合理的自覺を極端に嫌ふやうに、專制君主は民衆の自覺を嫌ひ、資本家は勞働者の合理的要求をきらう。が、嫌つても、嫌はれ通せるならそれでもよい。それがとても通せるものでないのにかゝわらず、なをやり通さうと無茶を張るところに、社會の不安と混亂が起る。弱者もまたどうしたつてその要求を通さずに居ないからてある。

近代において、男性勞働者の價値の自覺が、ひどく剛慾な資本家達の頭痛の種になつた。そこへ彼等にと

つての救世主が現はれて來た。それが何かとなれば、女性が、男性の職業の世界への闖入である。これは資本家達にとつて何よりの付け目であつた。第一、女性は、たとへ能率が男性より少し低くとも、従順であるo そして、何より好いことは賃銀が安い。第二に彼等は無知である。男性のやうに何ほどかの教養を持つものが比較的少ない。だから、この方の云ふ事を、何でも御無理御尤もと引受ける。もとより生理的の障害が、彼等の勞働率を低下するが、それでも男性のやうに、すぐ反抗しないので馭し易い。また少くともかれ等の纖細な感情と神經が、ストライキ、サボタアジユのやうな、共同運動に取りかゝる組織のやうなものを成り立たせない。けれども彼等とても、みながみな男性のやうに教養が出て來たなら、いつ男性と共同脅威に取りかゝらぬとは保障が出來ない云々。

そこで、政治上の特權階級も、男性も、専制君主も、資本家も、そこでだけ珍らしく一致した意見は、何でも婦人には、あまり教育を施さぬに限る、それが何よりの一番無事だといふのであつた。

その證據は御覧なさい。今度代議士に當選した人々で、各黨中でも目貫と呼ばれる人々の現代婦人觀を、某新聞が集めた結果を！

革新黨のK氏は曰く、「とにかく俺は、着物が縫へて、飯が焚ければ女房に不足はないよ」と。憲政會のS氏は曰く、「在來の日本の婦道に對して」何どかが「何うしても兩立し得ない」と。わづかに五人の中、どうにか及第しさうなのは、政友會のM氏、曰く「現代女子教育の根本は、男子のまゝにならぬ女を教育するにある」しかしこのM氏のやうな人は、約四百の代議士中、十人とないのだから心細くなる。

かうして天下は秦の始皇が教へた通り、いつまでも「黔首を愚に」して置いて、立派に自分達の搾取が立

ち行くものと思つて居る。文政審議會がどうとか、敎育がどうとか、まるで文敎の化身のやうに廣告した前文相江木某老が、女子敎育については、在任中何一つ云はなかつた心事についても考へて見よ。
そこで自分は、現代敎育について二つの注文を發する。一つは現代の女子敎育に、もつと職業の基礎になるやうな敎育を取り入れよといふのである。いや、それよりも、全體に役に立つ敎育をせよといふのが本筋であるが、まあ本筋は別としての事だ。尤も各縣ではその各地方の狀況に應じて、それぞれ副業敎育を與へて居るところも無いではないが、東京の高女敎育などは、敎師を養成する以外では、殆んど職業敎育に資するやうな、敎育を施さない。みな女中をつかつて、子供は乳母まかせて居られるやうな、お孃樣敎育を授けるに過ぎない。何をしても間接直接の益に立つところの、人文科學、自然科學といふやうなものには殆んど注意を拂はぬ。これではいかぬ。それなら人格敎育でもせめて出來て居るかと思ふと、この方に至つては猶と不完成だ。
が、私の希望するのは、職業婦人自身についてである。もとより日本の女子敎育が、男子と共に機會的均等を得て、誰でも甲乙なく敎育されるなら申し分がない。が、そんな遠大な理想は容易に屆き相もないのである。で、職業婦人自身が、その疲勞した心身を更に驅つて、自己のプロレット・カルトに努力して見られることの必要がないかと云ふのである。女性勞働者は男性よりも、より割の惡い賃銀と仕事に忍んで居たのは昔の事である。今日は、イコオル・ウォオク、イコオル・ペイさへも世界の叫びとなつた。この時に考へて御らんなさい。男性が、まだ今日ほどにも、勞働者の價値を押し進めたのは、別に大した助力を他人に借りず

に、勞働者自身達が、長い間その慘苦の境遇に惱みあえぎ乍ら、なをプロレット・カルトの生育に努力し、自己の力をもつて、ついに自己の生長を成就しつゝあつたのである。或るマキアヱリストは、政治は力であると云つたが、今日は、一切の力は知識なのである。知識によつての合理性の闘爭、これが今日の闘爭の基調である。

思ふに今日のわが婦人勞働運動が、たとへ誕生の初期であるとはいへ、存外に生命の微弱に見えるのは何故であらうか。一にはその勞働社會の雰圍氣に含まれるところの、知識の力が薄弱なためてはなからうか。たゞ正しい知識てある。それによつて彼等は一齊に自分達がどんな地位に置かれて居るかを悟り、その不正な地位からいかにして正しい地位に立戻るか、一切はその光りを知ることゝ、それを推進しやうとする力によつて、始めて解決されるであらう。感情の差別が、女性を團集的に成り立たしめないなどといふなかれ。正しい知識をもつて、彼等の自己の地位を正視するものは、その共同の利害が、區々たる感情て左右されぬものである位ゐの事は、直ぐ悟り得られる筈である。そして團集への自覺は、まづ個人の自覺から成り立つ。現代は、現代勞働階級の女性達の生活の中へ、敎養的活動時代といふ一區劃を設けることの、決して無益でないことを私は信ずるものである。



職業婦人の歴史的位置

高橋龜吉

一

僅か數十年前の我が國に於ては、即ち今日の資本主義經濟の發達しない前に於ては、婦人にして機を織ることの出來ないものは、一人前の女としては取扱はれなかつた。否、機だけではない。棉花から絲を紡ぐことまでやつたのである。その他、漬物も、味噌も、醬油も、濁酒も、皆な婦人の手によつて、各家庭で造られたものである。家の廻りにある野菜畑も婦人の手によつて造られた。更に、等しく裁縫にしても、昔の婦人は單に着物だけではなく、肌衣（シャツ）から足袋から頭巾まで皆な自分の手で受持つたものである。無論、その外に今日の多くの婦人が尙ほ受持つてゐる育兒から炊事、洗濯（昔は洗濯屋はなかつた）家内外の掃除までやつたのである。之を要するに昔の婦人、即ち資本主義經濟前の婦人は、家庭で需要する衣食の殆んど全部を自分の手一つで供給する役割を演じてゐたのであつた。社會の經濟組織が長い歷史の經過の中に左樣に仕組まれたのである。而して、そうした婦人の仕事は、母としての天職と、よく調和してゐたもので

二

あつた。

併し乍ら、今日に於ては事情は著しく異つてゐる。例へば、紡績機械の發明と、紡績事業の發達とによつて、現在に於ては、絲を紡ぐことや、機を織ることは、僅かにオバアサンの昔噺の中に見出し得るのみである。とつくの昔に、機織る術は我が若い女性の必須な嫁入資格てはなくなつてゐる。味噌も醤油も酒も、最早家庭の婦人が受持つ仕事と考へる人は殆んどなくなつた。今の若き女性には、もうそんなことは彼女の家庭生活とは沒交渉である。彼女は商人からそれ等を買入れることとしか交渉を持たない。足袋にせよ、帽子にせよ、手袋にせよ、シャツにせよ、彼女はそれを如何にして造るかを考へる代りに、それの値段が安いか高いかを考へる。商人から買ふ方が或は便宜てあり、或は却つて安くつくからてある。工場生産組織の發達、營利主義經濟の發達、即ち資本主義經濟の發達は、必然にさうした結果になるのてある。

而して、それが更に發達すると、食事もレストランやそこらの簡易食堂や、飯屋で採る方が安くて、便利になり、洗濯は洗濯屋に、育兒は育兒所に(幼稚園などもその一種てあるが)託するやうになる。

さあ、こうなると今迄家庭婦人が演じてゐた社會的役割はだん〳〵消え失せて來る。併し、未だそれに代る婦人の仕事がない。家庭婦人には非常の暇は出來るが、衣食の多くを商人から買はねばならないので、懷勘定が詰つて來る。これが資本主義經濟の發達の初期に何れの國にも起る現象てある。

三

て、我々無產階級の家庭ては、家庭婦人が、何とか別の方面で働らかなくては、食つて行けないこととなる。併し、成る程、家庭婦人には暇は出來たが、今迄の習慣や、主婦としての責任から、家庭の外に出て働

くことは　婦人の骨を削り、血をすゝつて生産を强制する結果となるのである。のみでない、內職の低賃銀は又、直接間接に一般勞銀を競爭によつて引下げ、國民の生活程度を乞食同様に、悲慘なものたらしめるのである。斯様な社會狀態は、資本主義經濟の初期に於ては、何れの國にも起つた現象である。我が國に於ても、尠くとも、日露戰爭前後迄は尙ほ一般に、此の時代にあつたと云つてよい。當時の我が重要輸出品の多くが、眞田、扇、竹細工、燐寸、玩具、花莚等の內職的雜貨であつたことがその具體的な事實である。

併し乍ら斯様な婦人の內職制度は、一方に於ては、人道的立場からの改善運動あり、他方には工場制度で働くのは事實困りもすれば嫌でもある。此の進退兩難の境遇を突いて發達したのが所謂內職である。英語では之れをスエッチング・システムと稱へてゐる。內職と云ふ奴は、朝から晩まで一生懸命に働いても、飯代にも遙かに足らない安い賃銀で、主として家庭婦人を働かす制度のものである。だから、此の制度の發達によつて競爭を受け、更に婦人としては此間漸次に家庭を離れて戶外職業に從事することがより有利であることを認めるに至り、且つ戶內に閉ぢ籠る舊慣が破壞せられて、玆に婦人にして馬鹿氣た內職に從事する人は漸次減少するに至つたのである。此間の事實は、十數年前の眞田其他の內職の流行時代と今日のそれとを對比せば、誰れにも容易に看取し得らるゝ處であらう。

四

併し乍ら、斯様にして內職時代から解放せられた婦人は、今度は家庭を離れて、工場に行き、事務室に縛られ、乃至は街頭に馳驅せねばならなくなつた。しかも婦人の人類に對する最も尊貴な使命、即ち自然が特に婦人に託した母と云ふ責務に對しては何等の考慮も拂はれない。例へば、婦人が現に從事しつゝあるいろ

〵の職業の性質は、果して、母としての責務と調和してゐるか否かと云ふことは少しも顧みられてゐない。彼女は唯だ賃銀の收入ある處、婦人に新たに職業を與え得る處に、職を求めて走らざるを得ないのである。なる程、内職制度から解放せられて、婦人、從つて家庭の收入は增加したが、併し、現在の職業婦人は、今度は家庭から隔離され、母としての天職を放棄せねばならなくなつた。又、婦人の母としての天職に伴ふ特殊の生理的事情が必要とする勞働條件も、今は全く無視せられてゐる。唯だ、顧られるのは資本家の營利的立場のみである。

五

云ふ迄もなく、斯る狀態で永く婦人の職業が續き得べきでない。

機械の發明、工場組織の隆盛等によつて、婦人のなすべき仕事に革命が來たにも拘らず、未だ、その變化せる事情に適應する婦人の働くべき分野が發達しない。それ迄の過渡期に於て、婦人の母としての天職は資本家の營利的立場から蹂躪せられてゐる。之れが現在の狀態である。

斯る不調和の狀態にあればこそ、今の職業婦人は、家庭生活と職業との矛盾に尠からぬ苦痛を感じるのである。若しも機械の發明や工場制度の發達に適應して、婦人の職業がその母としての天職に調和する如く選ばれ、組織されてゐるなら、今日の職業婦人も亦、資本主義前の家庭婦人の如く、やはり其の職業と母としての天職との間に、大した矛盾をも見出さずに、愉快に職業に從事し得るに違ひない。

併し乍ら、斯樣な調和は棚からボタ餅式に落ちて來るものではない。現にその不調和のために最も苦しみつゝある職業婦人の努力によつて、その調和の方法を發見し、完成する外に途はない。これ今日の自覺せる

職業婦人が荷つてゐる最大の責任である。それには今日の營利本位の資本主義を倒さねばならないこと云ふ迄もないが、併し單に資本主義を倒したから、それで婦人の職業と母としての天職との調和が來るものではない。現にその不調和に惱める諸姉が畢生の苦心と愛とによつて、如何なる性質の職業を、如何なる組織の下に於て婦人の役割とすることが、最も母としての天職と調和し、しかも又社會一般の（即ち男子の立場をも入れて）福利に副ふ所以であるかを考察し提案せねばならない。

私は現代の職業婦人の位地を斯樣に見る。之れに對する諸姉の眞摯な研究を切望してやまぬ。

『科學藝術の如き創造的事業に對する婦人の貢献を貧弱と云ふ勿れ。男子は今日まで幾多の追放と禁制とを婦人に課して來た。婦人は今猶其の苛酷なる壓迫に惱んで居る。婦人が一見男子に劣るが如く見えるのは、全く之が爲である。婦人は決して本性上男子に劣つて居る者ではない。今日に於ける婦人の劣弱は、全く習慣と遺傳との結果である。』（ジヤック、ルールベー）



ロシアの農婦

「クレスチヤンカ」紙（農村婦人）より

今からおよそ百年ばかり前、ロシアに未だ農奴のあつた時分に、ニエクラソフといふ人がありました。此の人は、農村を愛し、憐れみ、わけても其處の婦人の境涯に深い同情を寄せ、かういつて彼女の嘆げきをうたつたのでした――

わたしの日――日の光なく、
わたしの夜――月の光なし、

……………

何者が彼女を侮辱しやうと、また彼女がその姑からどんな扱ひをされやうと、彼女の夫は――

しかし、幸福を求めるなんて、
女のすべきことぢやない。

………

歳月の流れは止まず、農奴も遂になくなりました。多くのことが變りました。が、變らないのは彼女の生活でした――

月日がたつ――
ものみなが、人みなが幸福を追ふ。
すべてのことが、いく度ゝ變つた、
が、神樣に忘られて
變らぬものが
只だ一つ――彼女の悲しい運命。

近頃まで、農村の婦人は自分の家と、臺所道具と、厩の牛のほか何一つ知らなかつたのです。彼女自身の子供でさへ、彼女の幸福の種ではありませんでした。大きな御腹を抱えて仕事する苦しみ、産み落す苦しみのすぐ後に、育て得ない悲しみと、土に埋める悲しみが來るのでした。生れては死に、生れては死ぬ子が餘りに農村に多い處からして、「人の子は牛の子よりも惠まれぬ」といふ諺までが出來たくらひでありました。が、しかし、一九一七年【大正六年】十一月の革命と共に、今度こそは、彼女の運命にも變化が來ました。彼女は、その夫と同じ權利を付つことになり、ソヴイエツト政府は、母としての彼女と其子供達を保護する爲に、いろ〳〵特別の施設を行ひつゝあります。

取敢ず出來たのは託兒所です。これは彼女が自由に安心して夫と共に仕事の出來るやうに、子供を預つて面倒を見る所で、最初は先づ野良仕事の忙しい夏の間の施設でありました。慣れないことなので、初めは彼女らも何となく不安に思ひ、なか〳〵子供を預けやうとは言はなかつたものですが、少しするとスツカリ譯

がわかり、よろこんで其れを利用するやうになつた許りか、夏期が過ぎても尚ほ此の設備を續けるやうに骨を折る程熱心になつて來たのであります。

勿論、託兒所は子供達の幸福を本位に其の世話をするのですが、其の恩澤は同時に母親達にも及ぶのです。只だ彼の女らが手足まといなく安心して仕事が出來るやうにしてやる丈けでなく、又た彼女らが母として必要な知識――姙娠中の注意、幼兒の育て方など――を有つやうに、而して出來る丈け此の新しきロシアの實情と理想とを理解するやうに、種々なる企てや催しが此の託兒所で行はれます。

で、かうして刺戟を受けた農村婦人の中からは、進んで都市へ出掛けて特別の講習を受け、村へ歸つて託兒所の管理を引受けるものも澤山出て參ります。

が、何しろ未だ一般に基金が豊かでないのと、農村の婦人が組織されて居らない爲とで、農村でのかうした運動はどうも都市のやうに捗かばかしく行きません。全國の農村に亘つての調べは未だ屆きませぬが、都市に就て見るならば、一九一七年即ち革命の年には、僅か十四だけしかなかつた公營の託兒所が、五年後の一九二二年には千二百八十七に增加して居ます。又た公營の姙産婦預所は、革命の年には一つもなかつたのが、一九二二年には二百三十四になつて居ります。で、此の種の、母親の爲め、子供の爲めの施設物全體に就て見るに、託兒所、姙産婦預所をはじめ、幼兒食物供給所、育兒所、母親相談所、母親講習所、「母と子の家」其他を合すると、一九一七年の三十四に對して、一九二二年には二千九百五十九、即ち三千に近い數に上つて居るのであります。

かやうに都市の方がよい成績をあげてゐるのは、農村の婦人よりも都會の婦人の方が一層熱心だからで、

都會の婦人の方が、自分の必要と要求とを一層はつきりと意識して居り、從て他から勸められるのを待つ迄もなく、自分から進んでこれらの施設に着手するからであります。

尤も、都市の姙産婦預所の如きでも、都會の婦人丈けがそれを利用することになつてゐる譯ではないのです。農村の婦人は、誰れでも、何時でも、最寄の町へ出て其處の預所で御産をすることが出來、且つ御産の後も數週間のあひだ「母と子の家」に入つて産後の手當てを受けることが出來るのであります。

ロシア全體の經濟狀態がよくなるにつれて、農村婦人の爲めの樣々な施設もずん〳〵進むのは明かです。十一月革命に依て、農村婦人ははじめてよき母となり、幸福な母となり得る機會を與へられたのです。あとは、(又たかくてはじめて)、農村婦人自らの覺醒と努力に依て、どれ丈でもよき母となり、幸福な母となることも出來るのであります。



飛沫

全龍寺百合子

出來合洋服的の文化（シヴヰリゼージョン、オヴ、レヂヰメード）

永い間田舍にゐて、久しぶりで東京へ出て來た。先づ何よりも私を驚したのは、東京中の男が、皆んな出來合洋服屋の見本になつたのではないかと云ふ事であつた。讀者よ、私を氣狂ひだと思つてはいけない。きちんとしたアルパカの上衣、折目の正しい白ズボン、一文字のカン／＼帽、ロイド目鏡、嘗められたやうなのつぺりした顏、試みに彼等の一人を、近頃めつきりふえた出來合洋服屋の店頭にその儘そつと置いて見給へ。彼等は何人の目にも、人間であるよりもより多く出來合洋服の見本として見えるに違いない。

然し讀者諸君、彼等を輕蔑してはいけない。彼等こそは、現代に於て最も新しい文化を形造るところの智識階級の人々であるのだから。そして、後代の歷史家は、出來合洋服的の文化時代といふ項目の下に、必ずその一頁を埋めるであらう。

久米正雄氏の職業婦人の印象

久米氏は、婦人公論の七月號『現代職業婦人の印象』の中で次のやうに云つてゐる。

『……職業婦人は尊い。その點に就て、今更職業婦人の地位を輕蔑するものはないだらう。然し、その尊さは、やむにやまれず眞劍でそれに從事してゐるか

ら尊いのだ。さういふ意味て、眞に撰ばれたるもの、眞に必要に迫られたもの以外には、濫りに妻たり母たる以外の職業に從事することを、私は職業尊嚴のために許したくない』云々と。

私は殆んどそれと同じ言葉を以て、或種の藝術家の立場にあてはめてみやう。『藝術家は尊い。その點に就いて、今更藝術家の地位を輕蔑するものはないだらう。然しその尊さは、やむにやまれず、眞劍にそれに從事してゐるから尊いのだ。さういふ意味で、眞に撰ばれたるもの、眞に必要に迫られたるもの以外には、みだりた調子を下した通俗小説を書いたり、非藝術的な仕事に從事することは、私は藝術尊嚴のために許したくない』

又『眞にその必要のない婦人が職業に就くといふことは、職業といふものを、餘りに甘く、餘りに道樂とみてゐる一種の惡傾向だと思ふ』と同氏は云つてゐるが、私はそれに答へて次のやうに云はう。

『眞にその必要のない作家が、安易な通俗小説を書くといふことは、藝術といふものを餘りに甘く、餘りに道樂とみる一種の惡傾向だと思ふ』云々と。

なほ、眞にその必要がなくて職業に就いてゐると思はれる婦人でも、或ひは、同氏が調子を下ろした通俗小説を書く位の必要さには迫られてゐるのではあるまいか。

十五年前の藝術教育

もう十五六年以前の事である、私は嘗て友人達の集りの席上で、「藝術教育」と云ふ事を云つた事がある。すると友人の一人がそれに答へて、『何、藝術教育だつて、今の教育家にそんな事をさせたら、藝術も小供も泣くよ』と云つて、一言のもとに私の言葉を否定してしまつた。聞く處に依れば、十數年程前に偶然私が云つたその藝術教育と云ふ言葉が、現在の教育界に有力な叫聲として提唱されてゐると云ふ事である。非常に結構な事であると思ふ。たゞこ

ゝに私の氣掛りなのは、甞て教育界に於ける最も進歩的な試みとして、一時は教育界の中心題目になりさうになつた自由教育と云ふものが今どうなつたかと云ふ事である。で、私は或一人の進歩的な教育家に尋ねて見た。『一體自由教育と云ふものはどうなつたのですか』と。その教育家は云つた。『あれは一種の試みとしては面白かつたが、結極失敗でせうね』では『此頃流行のパーカースト女史のダルトン案は』『どうも期待した程のものではなささうです。結極、教育界はもとの教育法に後逆りです』私はそれを聞いて、狐につまゝれたやうに『へえ』と言つたりきであつた。が漸くにして、私はふと、或縣下で、一人の新人教育家が中等學校の入學試驗準備教育を廢さうと、縣下の各小學校長の聯盟を作つた處が、縣當局の干渉をうけた。御巡りさんが一々校長を訊ねて、意見を聞くと『あの男があんな事を云ふものだから賛成したまでゞ、別に自發的にどうと云ふわけではなかつた』と云つて、その提案者一人をのこして、一人殘らず聯盟を捨てゝ走つたと云ふ事を思ひ出して、成程なあと、今更のやうに友達の言葉を考へて見た。

奢侈品增稅案

政府の提出案である奢侈品增稅案にはいろ〳〵議論があるやうであるが、われ〳〵貧乏人にとつて困るのは、ちよつぴりとした贅澤をすら許されなくなることである。金持の婦人たちにとつては、よし千圓のダイアが三千圓になつたところで、その優越感を滿足させることにより一層の快感を伴ふだけであろうが、われ〳〵にとつては、一杯の美味しい珈琲をのむにも、紙臭くない一本の煙草を汲ふにも氣兼をしなければならなくなるであらうから。



廢娼に就て

西村文子

私は現在の夫と結婚する日まで即ち『大正十二年の七月廿五日まで、或る妓樓から娼妓として牢獄の囚徒にも劣る待遇を受けて來た人間』であると云ふ恥しい告白を前提として、現代の廢娼論に對する私の意見の一部分を申上げたいと思ひます。

『公娼を廢止せよ』『私娼を撲滅せよ』など近來一層廢娼論なるものが八釜しくなつて來た樣でありますが、私をして忌憚なく言はしめるなら、現在喧傳されつゝある所謂廢娼論は、極めて淺薄な上ッ調子の空騷ぎで、且つ、私共に取つて御祝儀主義の正月言葉である樣にしか思はれません。

それが然も、現代新進(?)の代議士方や日本一流の婦人論者や、果は私共と性を同ふする有名な婦人團體の諸姉たちから熱心に叫ばれてゐるといふに至つては、私共娼妓上りの女の立場からみて、其人達の餘りに輕卒であり、餘りに淺薄である事が遺憾なのであります。

眞個に私共娼妓の存在が現世に許されないものとすれば、今少し深刻に其根本問題である現代社會の經濟組織を考へて見て戴き度いもので御座います。

何が厭しい何が辛いと申しまして、此の世の中に食べて行かれない程の苦痛はありますまい。娼妓に成り終る程の女に、家が富有で自由な生活をして居乍ら道樂や趣味でする人は一人もありません。極一

部の女は別として其の殆んど全ては、家庭生活の窮乏から止むを得ず、涙を呑んでその恐ろしい『どん底』に我と我身を投げるのであります。

其れに就いて私共は一等よい例證になるだろうと思ひますので、私自身の娼妓に成り下る迄の經路を明ら樣に打明けて賢明な諸姉方の御一考を煩し度いものであります。

私の子供の時代は別に何程の事もありませんでした。父母の他に一人宛の兄姉と二人宛の弟妹と九人家内で、極めて圓滿な農家でありましたが、姉が嫁いで四年目丁度私が十九歳の春四月の末、未だ乳ばなれのしない末の妹を殘して突然母が亡りました。

平和に暮して居たとは云ふものゝ根が貧弱な小作農の私の家庭では、母を亡くした事に依つて一時に大きな海嘯が押寄せてきました。

たちまちにして私の家は恐しい生活苦と云ふ闇暗の幕に包れました。それでも父は乳呑子を私に託し兄を伴つて野良の仕事に精を出していましたが、父の片腕と頼む兄は窮乏した家庭に涙の別れを告げて○○聯隊に入營せねばならないことになつたのでした。

殘されたのは十九歳の私を頭に五人の弟妹だけなのですから、父の苦勞は實に一通りではありませんでした。そうした日常の苦しさや父の苦痛を目前に何としてぢつとして居られませう。僅かばかりの親類は有つても皆家計の富かでない家ばかり。姉は初産したばかりて、遠く出稼いて居る其夫からの仕送りを病褥に待つ敢果ない身だつたのです。

私が娼妓にならうと決意したのに誰が批難をされませう。一家の生活を安定す可く六人の肉身を饑饉道から救ひ出す可く、私は我と我が身を恐しい淵に投げ込んだのであります。

廢娼論には、私の樣な無智な女ても涙を以て感謝しますが、然し現代の廢娼論者の唱へる空虛な所謂

廢娼論にはあきたりません。廢娼論を唱へる前に、先づ『娘を娼妓にしなければならない程窮乏の極に陥つて居る家庭』を根本から救濟する施設なり機關なりを作つて、而して後に廢娼を云爲す可きではないでせうか。

今に自分の血を絞られる恐しい樓主から受取る自分自身を賣つた身代金でさへ、其時の父や弟妹を饑餓の危地から救ふ金だと思へば無性に有難く、鬼の樣な樓主の顏が私には救世主と見えました。卒直に申しますと、彼の時私共の家庭にほんの僅かばかりの物資を提供して呉れる機關が作られて居たとしたら無論私は娼妓にはなつて居なかつた筈です。萬の桁に七指を屈する程澤山の公娼を作つたと云ふ事は誰の罪でもありません。一に現在の社會制度の負ふ可き所で、實に我國經濟組織の缺陥が齎す戰慄す可き事實として、今少し之等の根本問題の解決に先づ最善の努力を致す事が、我國に於ける廢娼論者の取る可き眞個の道であらうと思ふのであります。

那須と鹽原

細田民樹

雨の鹽原に這入つて見た。山の形のあまりよくない鹽原は、大抵霧の中に包まれてゐたので、却て麓や谿谷の趣きを増してゐた。

私は尾崎紅葉が『金色夜叉』を起草した畑下戸の清琴樓に泊つたが、鹽原の景はもつと下流の方がいゝ。矢張り回顧橋を渡つて、箒川の深い谿谷を見下ろすあたりから鹽原らしい感じが出る。こんなところを捕へなければ、本當の山水畫は出來ないだらうといふ氣がする。日頃支那や日本の古い繪を愛してゐる私は、それらの傑作に表れた實景を、こゝで見るやうに思ふ。箱根のやうに、幽玄な大山といふ感じでもない。十和田湖畔の奥入瀬の溪流のやうな、肚の底に滲みるスイートネッスもない。謂はば雄勁て男性的で、或險しさと重苦しさを持つた山水だ。黑々とした杉の林が、山の上から脈を引いて裾までずつと重なつてゐる。それが險しい谿を尙險しく見せて、そして眼の下幾百丈のところに、細い流れが泡立つて、氷柱のやうに鋭く光つてゐる。やゝ中心のない景色だから、主觀的に求めると乾いて了ふがそのまゝ受け容れて見てゐると、なか／＼豐富なものだ。

×

紅葉山人も、晩年はあんな病的な人だつたから、鹽原を隈なく歩いて見て、それから畑下戸に極めたわけでもあるまいが、山人のゐた部屋は、すぐ眼の下が、箒川のまがるところで、かなり川瀬の音が高

い。私だつたら、あんなところに書齋をとる氣にはなれない。今ではこの宿屋も、大きな新築をしたので、山人のゐた棟は舊館と呼んでゐるが、そこには『紅葉の間』といふのがある。單衣か何か着て、無雜作に机の上に乘り出したよく見る山人の寫眞をかけて、『金色夜叉』の中の、この宿のあたりを書いた原稿を額にしてゐる。明治の大家で得意におさまつてゐた山人の樣子が、眼に見えるやうでちよつと微笑を感じる。宿屋の看板にも、れい／＼と『金色夜叉旅館』と書いてゐるから、ぬけめがない。

しかし風景の纏まり方としては、なか／＼いゝところだ。川を堰きとめて瀞にしてあるから、三階からやまめの游いでゐるのも見えるし、夜は河鹿のひん／＼と鳴く聲が、溪流の高い音と交つて聞えて來る。ぢつと河鹿を聞いてゐると、妙な神秘感が湧く。どこまでも清澄な響きの中に、一種頼りないやうな底に引き込む哀音がある。たとへば靜かな夜の座敷に、行燈を點けて、その燈心の音を聞くやうな氣持だ。河鹿も場所に依つて、その音の長さや調子が違つてゐる。さう言へば鶯だつて、地方に依つて多少音色の違ふものだが。

『紅葉の間』から正面に見える長細い瀧は、恐らく鹽原中でも趣きの深いものだらう。水のすくない女性的なものだが、その落ち方と懸り工合が面白い。平たい瀞の正面を塞ぐやうに懸つてゐる。嶺の下からのぞくのでもなければ、山峽を通して見るといふ風でもなく、靜かな廣い水面の上に、謂はゞ舞臺がかりに懸つてゐる。そして瀧の中ほどに、小さい檜が一本のぞいてゐるが、それをぢつと見てゐると、止み間なく落ちる水の持續する感じが、實にその一本の樹に表れてゐる。自然の風致だつて、人間の性格などと同じやうに、よく見てゐないと、格に徹したことは解らない。同じところを見るにも、度々眼を更へたり、場所を移して見てゐるうちに、自然の位置

や、周圍との關係が微妙に解つて來る。丁度人に接してゐるうちに、その人の傳統的なよさ、教養のよさ、さういふものが、だん／＼味深くうかがへるのと同じだ。この瀧を中心として見た谿の開け方、背後にあるふじ山の高さと山容、中腹の道の勾配と、いろ／＼關係を結んで見て、始めて瀧が生きた人間の面貌のやうに、潑溂としたものを印象する。

×

那須の高原は丁度つゝじのさかりだつた。見渡す限り赤い花の咲いた中を、放馬がゆう／＼と歩いてゐる。その馬の背よりも低く、遠く白河あたりの山々が、雛のやうに續いてゐる。

曇つてゐても、何分廣い高野なのだから、同じ雲の下にありながら、場所に依つて、光線の强さが違ふ。白河境の高原が月夜のやうに光つてゐるかと思ふと、築波方面の山裾は、墨汁を流したやうに黑くうねつてゐる。しかし視野の手前の方には、高原の小さい丘々が、かすかな蔭をつくつて、淡青く霞んだ霧の中に、なだらかなスロープを見せてゐる。廣野も澤山あるが、那須ほどに、草原の趣きを豐かに持つてゐるところも尠い。

×

そして至るところに散點してゐる杉の森だが、あまり大きな樹がないに拘らず、すく／＼と靜かに緊りきつて立つてゐる樣子に、どこか原始的で神嚴なものがある。歷史以來、斧の入らない感じが、空を區切る森のこんもりした陵線のうちに出てゐる。

×

始めて合つた人の顏を見て、これはどこ產まれの人だらうと判斷して見ることがある。その言葉や、アクセントを聞かない前でも、よく當るものだ。矢張り同じ日本の中でも、國に依つて、縣に依つて、その顏に特殊な感じがはつきり表れてゐる。たとへば秋田の停車場からの乘客は、みんな親戚かなどのやうに似てゐる。それは金澤でも、岡山でも同

じことが言へる。

　そのやうに、野洲の人には、野洲人らしい特殊な顔がある。その感じはどこでも、女の方によく表れる。在來の日本婦人が、非活動的で、産まれた一箇所を動かなかつたせゐもあらう。それはとにかく、栃木の女は外的な容貌の美にも、容貌を通して見る精神的な美にも、實に恵まれてゐない。鼻のへしやげて、頰の赤い、眼の血走つた、それて惡く下ぶくれのした顔は、粗野で氣早くて、何となく險しい。中國あたりのやうに生ぬるいものはない代りに、はやり易い興奮が見えてゐる。

×

　丁度旅先は、どこでも田植のさかりだつた。汽車から見えるだけでも農民の樣子で、一番みじめなのは、東北本線だ。青森から弘前の間、山形附近の農民は殊にひどい。雪國のせゐもあらうが、殆んど家の体裁を爲してゐる家は尠ない。堀立小屋のひどい家に住んでゐる。私の田舍の中國地方では、田植の早乙女など、なか／＼きれいにして出る。尠くともメリンスの腰卷と新しい手拭くらゐはつけてゐる。しかし栃木地方の早乙女などは、男か女か解らないやうな風采をしてゐる。何と言つても自然に恵まれない地方の農民は氣の毒なものだ。

×

　那須の廣野を歩いてゐると、時々開墾しただけて、まだ人の通らない道に出る。道の中にスカンポや蕗などが生ひ茂つてゐる。だん／＼人が殖ゑるに從つて、道が道らしくなるのだらう。



世界の婦人

支那の婦人運動

六月十八日發の外國電報によれば、去る十四日から上海支那人製絲會社の十工場の女工總數約五千名が、賃銀値上げを要求して同盟罷業を決行しつゝあるが中々大規模であるのに感心させられるではないか。それで此處に支那の婦人運動の概況を紹介する。

現在の支那の婦人運動には、三つの異つた潮流がある。一、勞働婦人の運動、二、女權運動、三、キリスト教婦人の社會運動が即ち之である。

一、勞働婦人の運動

長い封建制度の歴史を有する支那も近來主として外國資本家の投資のもとに工業化しつゝある。そして紡績業、絹織物製造及び煙草製造の諸工場に多大の婦人が工場勞働者として働く様になつた。外國資本家は之等支那婦人が後れてゐることゝ無組織なことゝを利用して、二重三重の搾取をほしいまゝにしてゐる。そこで之等勞働婦人の生活は困窮と悲慘のどん底までおちて、彼の女等とてもかゝる資本家の壓制に對して戰はざるを得ない様にしてしまつた。

一九二二年から二三年にかけて、處々に大規模なストライキが起り始めた、そしてその都度彼の女等が如何に階級意識に覺めて來たか、且又活動性にとめるかを立證した。上海に於ける煙草會社、紡績會社のストライキ、フペイの煙草會社のストライキ—之には三千餘の勞働婦人が參加した—その他一會社では、二十二支工場の女工、二萬餘名が三四週間に亘つてストライキを續けた例など〻、數擧げるいとまもない有様である。勿論之等ストライキの中には成功したものもあり、又何程の効果もなく終つたものもあつた。そしてその要求する所は、賃銀又は月給の値上げ、賃銀値下げに對する反對、惡工場法に對する抗議、勞働時間の短縮等、様々であつたが、全體を通じて階級闘爭の色綵が濃厚であつた。ことに興味あることは最も大きかつたストライキが勞働組合を組織する權利及び爭闘機關の設置とその認可を要求して行はれたものであつたことである。

一九二二年二月から二三年一月までの一ケ年間のストライキの總數は十八件、參加工場數六〇、參加女工數は三萬人であつた。

二、女權運動

支那の女權運動はその發端を一九一一年の革命に有し、清朝轉覆の直後には中々活發に活動したものだが、爾後一九一九年に至るまでの反動時代には著しくその力を弱くしてゐた。然るに南方政府の樹立と共に、特に廣東に於いて同運動の復活を見るに至つた。廣東智識階級の婦人團體は婦人の公民權及び參政權の要求をして立つた。そして之は多くの青年男女の熱心な支持を得て一九二〇年一月遂に成功したのである。廣東市會に一婦人が選出され、又數名の婦人が官吏又は公吏として事務監督官に任命された。而して一九二二年になつてから廣東の學生は婦人の經濟的、公民的、政治的權利のために戰ふ政治團體を組織した、その綱領は次の樣なものである。

一、參政權の獲得
二、財産の所有權及び獨立せる處分權
三、同じ仕事に對する男女同賃銀
四、結婚權の平等
五、教育の平等

同樣な團體が上海、天津、南京、北京等の大都會にも現はれた、何れも以上の如き純然たるブルジョア女權論的の立場にあるものだが、又上海の一團體の如きは、婦人郵便局員同樣、絹織物女工にも八時間勞働制を實施すべきこと、十四歳以下の年少者の雇用禁止、婦人勞働者の一週一回の休業、等の要求をかゝげてゐる。

しかし女權運動は、運動の性質上、小數智識階級及び一部小ブルジョア階級の婦人を含有するのみで大衆的の運動とは成り得ないでゐる。

三、キリスト教婦人の社會運動

之はキリスト教青年會、アングロアメリカンキリスト教婦人會等が主として活動する博愛的の運動で、婦人職業紹介所、相互扶助會、若い婦人の學校等を經營したり、婦人勞働保護のために國際會議に代表を送つたりしてゐる。又上海の支部では上海市會に次の提案をなしたこともある。

一、十二歳以下の少年勞働者の夜業廢止　（三十五頁へつゞく）

しばられて

代々木けい

みだらなる夜は明けはなつ、窓ちかく、
小鳥つばさもかろらかに飛ぶ。

◇

蒼空をはろ／＼と飛びまたかける、
小鳥さゞめく、悲しきわれは。

◇

はつ夏の陽はさんらんとかゞやきて、
窓より見ゆれ、わが暗き部屋。

◇

悲しみに胸もはり裂け、此の日頃、
女は、われと共にたゝかへ。

◇

生きながら地獄のふちに沈み去る、
女なりせば、今日も涙す。

◇

うつし世に呪はしきこと余のこと、
くさりの如し、しばられてあり。

◇

われもまた人の子、
生きの此の身のいとしき夕べ。

◇

御存知でせうか

護憲三派と無產階級

護憲三派が總選擧に壓倒的多數を占めた結果として、清浦內閣は倒壞した。

ところで護憲三派の新內閣は、劈頭先づ普選即行、綱紀肅正、財政行政の整理といふ三つの政綱を聲明したことによつて、存在の意義を明らかにしたのは、ともかくも一進步であると云つてよい。又各大臣も、在來の大臣のやうに、無抱負無經濟を標榜する代りに、多少なりとも革新的な氣分を持ち、曲りなりにも、抱負なり信念なりを以て事に當らうとする意志を表示した所に、幾分の進步を認めることが出來る。

大體に於て、護憲運動の勝利は、封建的貴族政治に對するデモクラシーの勝利、保守的反動主義に對する自由主義の形を採つて居るので、其勝利の結果として出現した三派の聯立內閣が前例のない好人氣を負ふて居る有樣である。又新內閣自身も、野黨時代の標榜の手前、且つは民衆の輿望をつなぐために、保守一點張りの官僚及び在來の政友會の方針から見れば多少自由主義的な色彩を帶びた政策を採らざるを得ぬ立場に置かれて居る。けれども此內閣が本質的に友政會や官僚と異るものでなく、其施政も大同小異のものにすぎず、相變らず保守反動を生命とする點に於て間違いはないのである。此點に於ては、單に護憲三派同士の間のみならず、護憲派と政友本黨との間にさへ、何等の差異もないのである。彼等の間に於ける主義主張の相異といふものは、同一有產階級の內部に於ける或財閥と他の財閥との競爭や利害の不一致を背景とし、それに個人的な

政權爭奪の歷史が搦み合つて、成立したものであつて一つの階級として見る時、彼等全體の間には、本質的に、根本的に相容れぬ要素を看出することは出來ないのである。言論や結社集會の自由に對して冷淡であり、無產階級運動を敵視する點に於ては、護憲派も非護憲派も何等選ぶところはない。

要するに互同士の間に於ける黨派的な利害はどうあらうとも、無產階級に對する場合、有產階級を代表する既成政黨の利害と態度とは根本に於て一致して居るのであつて、無產階級は彼等に對して何ものをも望むことは出來ない。有產階級が既成政黨によつて其利害を代表し擁護するのに對して、無產階級は、無產階級自身の政黨を持たなければならぬ。さういふ無產階級の意思を代表する機關が普選の實施に前後して出現し發達したならば、婦人運動にも一新生面が開かれるであらう。吾々は護憲三派の內閣が純粹なブルジョア自由主義を代表するものでもなければ、これに對して大きな期待を以て望むことは過ちであることも知つて居る。が、兎も角も普選の斷行によつて、無產階級の政治的勢力の結合を促したならば、歷史的に見て其存在は決して無意義でないと云ふことが出來たのである。

婦人參政權の問題

無產階級の政黨が出來れば、勿論婦人參政權は其綱領の一に加へられるに相異ない。一體世間の人が婦人參政權を恐れるのは、それが男性中心の家族制度を破壞するといふ一事にあるのであるが、無產階級に於ては、資本主義の結果としての、婦人勞働の搾取によつて、疾の昔に男性中心の家族制度は事實上破壞されて居るのであるから、失ふべき特權を持たぬ男子は、婦人參政權を恐るべき何等の理由もないのである。のみならず、婦人が參政權を獲得した結果は、常に婦人及び兒童の地位向上、生活改善を促すことゝなる。從つて婦人參政權の結果が何人を利するかと云へば、常に無產階級の男女を利することに歸着して居る。婦人勞働に對する制限や、母性及び兒童の保護は、勞働者の家庭を利するのみで破壞する恐れはない。斯樣に理論上から見ても、實際上の結果から考へても、婦人と勞働

者とは常に利害が一致して居るのであるから、兩者の間に自然の結合が生ずるのは當然のことである。吾々は無産階級黨の發達と共に、ブルジョア婦人の賣名運動としての婦人參政權運動とは全然質を異にする、プロレタリア婦人の眞摯な解放運動の發生を願ふて已まぬ者である。

米貨排斥と戰爭商人

新移民法案が七月一日から、實施され、日本移民は絶對にアメリカに入國する權利を失ふことゝなつた結果、報復手段として米貨排斥が叫ばれ、國民の對米感情を亢奮させるような種々の手段が一部の人々によつて講ぜられて居る。其等の運動の背景には、常に反動團體を手先に使ふ戰爭業者軍閥の魔手が潜むとも傳へられる。そして爲替相場の變動によつて米貨の輸入に困難を感じてゐた商人の利害が、排貨運動の氣勢を煽つたのだと説く者もある。兎に角、米國の排日を機として、內國の商人が其競爭者を驅逐して利益を獨占するもよからうが、國民にとつて何より迷惑なのは、單に商品のみならず、序に戰爭まで押賣される恐れのあることである。國際戰爭は成金の親であり、暴利取得者の救世者である。武器會社や軍需品商人は、戰爭景氣を齎らすためにはどんな犧牲も辞しない。彼等は愛國心の名に於て同胞を惡魔に賣り、其血と肉とによつて自ら肥えむことを圖る。彼等の眼中には國民も同胞もなく、あるものは只だ金儲けの一事のみである。彼等は飢えた兵士に石ころの罐詰を食はせ、凍えてゐる軍隊に糊づけの外套を着せても、金にさへなれば立派に盡忠報國の義務を果した喜びの外何も感じない。血を見て喜ぶ侵略主義者と、金儲けに目の眩んだ投機商人との吹く笛につれて、國民は、吾れと吾身を傷つける血なまぐさい劍舞を舞ふほどに無自覺であるだらうか。米國の排日は甚だ不都合である。けれども日本國民は、米國人に嫌はれたからとて、日本の軍閥者共と投機商人の利益のために、其馬前に打死せねばならぬ義務があるだらうか。町娘に嫌はれた田舍武士が、武士の一分を立てるためと稱して刄を振まはした時、誰が其勇氣と智略とに感服したゞらうか。

戰爭によつて利を占める者共、

軍閥と金持とである。そして有形無形のあらゆる犧牲を拂はせられる者は婦人と勞働者である。戰費を負擔する者も無產者ならば、生命を的に戰はされるのも無產者である。

聰明なる婦人達よ。內地產の商品をお買ひになるのは結構ですが、『愛國心』や『大和魂』のレッテルを張つて危險な爆發性の玩具、殊には軍閥と軍需品商人が推賣に步いてゐる『戰爭』を、忘れてもお買取にならぬよう。

（二十ヶ頁よりつゞく）

二、若い勞働婦人の教育のために工場內に必修課定を授ける機關を設けること

三、工場內の衛生狀態を改善すること

等。

この運動はかなり多數の小ブルジョア婦人を擁し、尚多少の勞働婦人をも有してゐるが、その立場が全然、改良主義であるために、どん底の困苦をなめつゝある勞働婦人の大衆に滿足を與へることは出來ない。

上京して職を求める方に

上京して職を求めやうとする婦人が殖えるばかりですが、わが職業婦人社としては、今まで通り一人でも多くの方々の志望を生かすためにお力添をします。然し、婦人が職を求めて自活しやうとする事は、今の世の中では殆んど不可能であると云つていゝ程六ケしいことであるのですから豫め充分の決心と覺悟とを持つて掛つて下さい。獨立する積りで何かの職業に就いてみて初めて、婦人の社會的地位がどんなにあはれなものであるかに就いて泌々と感ずるところがあるのでせう。私たちが世の多くの婦人たちに考へて貰ひたいと思ふのも、實にそこなのです。

五月の風

堀　八重子

地の面にさざ波たてつさつき風夏の薫りをのせてふきくる

さつき風吹きつのるれば内苑の果なき林鳴りのしげしも

うちすめる池の面わたるさつき風こゝろよろしみ佇めるかな

深林の五月のみどり陽に映えてそよげるもいと輝やかしけれ

神宮の寶物殿のおばしまに五月の風を味はひにけり（明治神宮にて）

心すれど病ひのいえて間もあらぬ父ゆ早まる我のあゆびは

やうやくにのぼりつめたる阪の上に佇みて先づせきいりぬ父は

おみな等の面つかれて見えにけり春も末なる百貨店にて

目まぐるしき衣賣場よりのがれ來し陶器具部屋のこゝろよきかな

法律顧問

片山哲

（問）秘密の結社は禁じられてゐるとの事ですが、その法律的意味を說明して下さい。（女高師生）

（答）これは治警第十四條に規定せられてある。まづ結社の意味から說明しなければならぬ。結社とは「共同の目的を達するために多衆の者が繼續して結合する團體を謂ふ」のである。共同の目的を達するためであるから例へば學校の樣に教育といふ目的のために結合したもの、或は又一時的に結合したものは結社ではないことになる。又公共團體の如きものは共同の目的のために結合するのであるけれど强制的に組織せられるものであるから、この結社のうちには入らない。結合した團體であるが、必ず常に一定の場所に多數の人が會合を繼續的にやつてゐなければならぬといふことはない。治警法はかゝる結社を秘密裡にやることを禁じてゐる。即ち結社の屆出、加入者の資格制限、警察官の干涉訊問、內務大臣の結社禁止命令權がこれがために生れてくるのである。秘密結社であるや否やは、結社を秘密裡に行ふこと即ち社員以外に其結社に關する事項を漏してはならぬといふことを嚴守すべき要件の存在する結社をいふのである。之に違反したるものは六月以上一年以下の輕禁錮に處せられる。

（問）妻は夫の財產を相續することが出來ますか（文學士の妻）

（答）原則として、妻は夫の財產を相續し得ないことになつてゐる。家督相續と遺產相續と二つの問題がある故話しは大變複雜するが、（一）子供が全部相續をする（二）夫の兄弟が夫の地位財產を繼ぐ（三）夫の姉妹が其の次の位にをる。夫婦の間に子供なく、夫の兄弟姉妹が同一戶籍內にをらぬ時、初めて妻は夫の地位財產を受け繼ぐことになるのである。妻に財產を持たしめないことが我民法の方針である、財產はなくとも大丈夫、夫は妻を扶養すべきことにな

つてゐるといふのが我家族制の本旨である。妻に假りに財産があつたとしても、それを自由に使ふことが出來ない樣になつてゐる。妻の權利を剝奪することが主眼であるから、妻に相續權のないことが當然であると謂はなければならない。

(問)ロダンのキッスが公衆の展覽を禁ぜられたといふが、かゝる禁止はどの法律によりますか　(美術女學生)

(答)それは矢張り治警第十六條に依るのである。同條に曰く「街頭其の他公衆の自由に交通することを得る場所に於て文書、圖書、詩歌の揭示、頒布、朗讀若は放吟又は言語形容其の他の作爲をなし其狀況安寧秩序を紊し若は風俗を害するの虞ありと認むるときは警察官に於て禁止を命ずることを得」とある。而してその法律は明治三十三年に制定せられたものである。警察官がかゝる藝術品の判斷を(?)獨斷的になし得るの可否につきては、玆に新めて言ふべき必要を見ないであらう。

(問)産婆、看護婦の規則を問ふ　(子守生)

(答)産婆看護婦規則は明治三十二年の勅令で公布せられ、大正六年まで二回の改正があつた。全文附則を入れて二十ケ條あり、滿二十歲以上の女子で、産婆試驗に合格したもの、內務大臣の指定したる學校若は講習所を卒業したる者が、産婆になる資格がある。看護婦規則は大正四年六月三十日の內務省令で定められたものである。全文十二ケ條から成つてゐる、公衆の需に應じ、傷病者又は褥婦看護の業務を爲す女子を謂ふのであつて、滿十八歲以上の者、看護婦試驗に合格したる者、地方長官の指定したる學校又は講習所を卒業したる者等が看護婦たる資格があるのである。

四十三頁のつゞき

ないでさ、澤山の人達は腹がすいて死んでしまふなんて事を許しておく樣な馬鹿が住んでゐたのはこの地球が始めてだよ』

　火星の人間はこう云つて笑つたのでした。

裸身の靈魂

青山彫子

カフェ――
燃ゆる緋の窓懸蒼ざめし窓硝子
紫色の憂鬱は壁の鏡を這ひ廻る。
ふかぶかとアームチエーアに獨り、
さめざめとなく裸身の靈魂。
悔いと惱みは見えざるけむりとなりて
すゝり哭く女をめぐる。
食卓と椅子の林、茶碗とスプーンのふるゝ音、
無數の凝める眼は散亂し
朦朧と漲ぶせる酒と煙草の雰圍氣を
狂ほしくいらだたせゆく最高調のトリオ。
　白き肉塊はその混亂の林を
　媚びと嘲りさをもて舞ひさまよふ。
快よき眩惑のうちにきえゆける一沫のくらさ。
容はてし後
さびしさはかなる印度茶
壁の鏡に映し見る頬のやつれよ。
自棄的に双手さしのべ
鏡なるおのが眸に媚笑をおくる
カフェの女――。

紙鐵砲

Tom

□私はその頃ほんとうに無邪氣でした。良心の命令でお嫁に參りました。始めは非常に幸福でした。正直に云ふと、私は鏡にうつる美しい姿と美しい顏に夢の樣に醉ふて居りました。そして私は夫から何の不足もなく愛されてゐると思つて居りました。ところが以外にも或る日、夫は本氣になつて『お前は娼婦そのまゝだ』と云ひました。それが私の心に非常な打擊を投じました。私は新たに鏡を見直ほしました。私は果たして娼婦の姿をしてゐるかといつて。

私の心は夫に對して反逆し始めました。私は妻となつたのであつて、決して娼婦になつたのではないのです。私は斷然離別をせまりました。その時から私は反省といふ事をしみ〴〵と考へました。そして永久の反逆者になりました。皆さん！私が誤まつてゐるでせうか。（美智代）

私たちはだまされてはいけない。加藤內閣の出現に依つて有頂天になつてはいけない。犬養、高橋、加藤といつた處で、狸と狐と泥棒猫の寄り合ひ世帶、政權欲しさの聯立內閣、その證據には加藤のオヤジ天下取つたら護憲運動は知らぬ顏、地藏佛になりすまし、猫なで聲で招待會、脊中でそつと貴族院の御機嫌伺ひ、敵や味方を繰つて、今こそカヂリつきの根膽最中、貴族院改革何處へやら、だまされまいぞ、だまされまいぞ。（花子）

私おかしくてしようがないの。耳隱くし亡國論ですつて？いくら耳を隱くして歩いても聞える事は何でも聞えてよ。ぢあ男の方に伺ひませう、貴方方に何處に米[illegible]化しない處がありますか？！まづ御自分を省みて云ふものよ。女の髮は大象をつなぐといふ誇がありますけれど髮の結ひかたで國が亡んだためしは古今東西その例を聞きません。此の頃の男の方はどうです。あのヒヨロ〳〵した洋服姿を御覽なさい。ガスのない風船玉の樣に一寸風が吹いても倒れそうなフラ

〱狀態で大きな事を云つているじあゝりませんか？何處に健全な精神がありますか？排日問題が聞いて呆きれてよ、耳隱しがいけないつて何のたわごとでせう。まづ御自分たちの生活がどんな差別待遇にあるかといふ事を少しは反省なさい。（みどり）

□震災當時の事でした。私はあの大きな震災のために凡てを失つたのです。親も兄弟もそして富も。みよりのない私の落ち行く先は決まつてゐますわ。市の職業紹介所を叩きましたの。私と似た樣な境遇の若い人等が日常の生活品を得るために小暗い時からつめかけていましたわ。やつと職業にありついたと思つたらまあどうでせう。〇〇でしたの。職業には違いありませんわね。りつぱな婦人職業の典型的なものでせう。政府で公認してゐる以上周圍の環境と生活の困難から餘儀なく私もどん底に足を踏み入れてしまいましたの。後悔先に立たずで私は今淋しい病院の一隅に白いベットに橫はつてゐます。病毒は一日〱と死ぃ深味へ引ばり込んで行きます。誰かゞ私の耳もとでさゝやきました「日本は亡命國だ」と。（かはる）

□何んですつて私が生意氣ですつて？リクツを云ふのが生意氣なの、何故女は理窟を云つてはいけないのかしらん？サア聞かして頂戴。男は何故理窟を云ふ女が嫌ひなの？私が當てゝみませうか。それは、奴隷を要求する心理よ。只靴の紐を結ぶシモベであればいゝのね。ほら圖ぼしをさゝれたでせう、狼狽してゐるじあないの、笑つてやり度いわ。心の底から。さよなら。（K子）

□私らが未だ若かつた頃內藤千代子といふ女があつた。盛んに女學世界に寄稿してエンゲーヂ、マリエーヂ、ホネームーン等の語句を連ねて若い心をそゝつた。私らの熱き血潮は當時頻りに湧立つたものだ。

然し、結婚とは果してそれほど幸福を齎すものであるだらうか。世の既婚婦人たちよ。忌憚なきあなたの感想を聽かして吳れ。

結婚後たちまち幻滅して前非を悔いても、子の愛に索かれ、財產に索かれ、世を憚り、世を恐れて、ついにその一生を埋沒し終つてしまふ。あゝ、これが女の一生。

（けい子）



地面（童話）

武田ちゑ

昔々ある時、火星の人間が地球のある大きな奇麗な國に遊びに來たことがありました。大きな河が地面をうるほしてゐて、見渡す限り美しい田畑が續いてゐます。火星の人間はうれしくなつてしまつて歌を歌ひながら、とある道を歩いて行きました。そうしてしばらく行くと地球の人間がやつて來るのに逢ひました。しかしこの人間は又、何て情なさそうな、おどおどした顔つきをしてゐるのでせう。

『今日は』と火星の男は呼びかけました。

『今日は』

『どうしたんだい？　何か不足でもあるのかい？』

『私は腹がすいてたまらないんです』

『ぢや、どうして食べないんだい？』

『だつてお金がありませんもの』

『では働けばいゝぢやないか、そうすればお金が貰へるだらう?』

『だつて仕事が見つからんのです』

『そんならこうし給へ、あそこに丁度空地があるから、あそこへ種を蒔いて、さうもろこしだの、ぢやがいもだのを作ればいゝぢやないか、ねえ、さうし給へよ!』

『だつて地主様が承知して呉れないのです』

『何だつて?』

『へえ、地主様が私にあそこを耕させて呉れないのです』

『地主様つて一體誰の事なんだい?』

『地面を持つてゐられる人の事です』

『僕にや何の事か解らないね。君達地球人は、地球は神様がお創りなされたといふんぢやないのかい?』

『えゝさう云つてゐます』

『それじや神様は、皆が食物を作ることが出來る樣にと、子供達皆のためにお創りなされたのではないのかい?』

『私はそう云ふ風にきいてゐますが、きつとそうに違いないのでせうが、私にはわかりません』

『それを又どうして、ある人間だけを地主様なんぞにしてしまつたのだらうね』
『法律があの人達にさう云ふ權利を與へてしまつたからです』
『その法律は誰がこしらへるのだい？』
『私達です。』
『私達つて誰のことだい？』
『私だのその他の奴だの、選擧人の事です。』
『君達はまあなんてゑらい國民なんだらう。こんないゝ肥えた地面を地主様なんて人達にやつてしまつてさ。おまけに君達が空いた地面を耕すことを承知しない特權までやつてしまつたのかい？　そうして君達はあつちこつち仕事をさがしまわつて、腹がすいて死んでしまうぢやないか。そんなことつてあるかしら』
『旦那、全くその通りなんですよ』
『それで君達が、僕等の世界の樣な世界を作るために一旗擧げるより、飢え死する方がいゝと考へる人だつたら、よつぽど頭がどうかしてゐるよ。實際君達はまあ――』
『旦那それはどふ云ふことなんです』
『僕は今までに色々な世界に遊びに行つて、もう十も二十もの世界を渡り歩いてゐるけれど、こなん事はこの地球が始めてだね。ある人達だけが地面を持つてゐて、他の澤山の人達がその地面を耕すことを承知し
（三七頁へ續く）

乞食

金子洋文

一

北から南へ向つて走つてゐる一本の途がある。
南から北へ向つて走つてゐる一本の途がある。
この二つの途が落合つたところに何がある、人生ではこの交叉を渡と言つて、年のとつた老人が、舟で旅人をおくり迎へすることになつてゐる。

北の方から一人の女乞食がやつて來る、南の方から一人の男の乞食がやつてくる。
男は北へ北へと旅をつゞける、その方が暮しよかつたから。
女は南へ南へと旅をつゞける、女の生活には、寒いところより、暖かいところがよかつたから。
女が渡へついた時は夏の夜であつた、河岸に小舟がつながつてゐるだけで渡守がゐなかつた、女は裸體になつて河へはいつた。

美しい月の夜で、河水が銀色にひかつてゐた、女は頭から水をあびてくさい汗をおとした、髮を洗つた、手も洗つた、足も洗つた、みんな洗つた。

女は左の肩をそびやかしてきれいになつた自分の肉體を見た、女は自分を美しいと思つた、と同時に、女は自分の身體の隅から隅まで、月のために見られてゐるやうに思つた、急に恥しくなつたので、女はさゞめきながら泳ぎ出した。

對岸へ男の乞食がやつて來た、彼は銀の小波の中に戯れあそんでゐる人魚の姿を見た、彼の空想は、無限にひろい夜空のやうに、美しくひろがつた、彼は足音をしのばせて河岸にしのび寄つた、そして汚ない着物をぬぎすてると、河にはいつて人魚を追ひかけた。

美しい水の戯れがつゞいた、銀の小波は近く遠くつらなり、銀の飛沫が白麗の二人の肉體の周圍にあがつた。

女はさゞめきながらたくみに逃げた、男は追つた、男はなめらかな女の足先に手をふれた、次に女の手にふれた、三度目に追ひつめて女の胴を押へやうとした時、女は水底にくゞつた、男の手は女の太股にかゝつた、そのまゝ、するするとのびて、女の全身を抱きしめたのであつた。

二

その町は暮しよかつた。

春になると北から鰊船がはいつて來た、夏になると、南から薯と雨傘をつんだ船がはいつて來た、山からたくさん木材や果實がとれ、秋になると河をのぼつて米が方々からあつまつて來た。

町の人達は元氣で親切で弱い者を助けた、着ることをさげすんで食べることを自慢した。

二人の乞食は町の人達に可愛がられた、二人は仲のいゝ夫婦であつたから。男は風の强い日や雨の日ももらひに出かけて行つた、女は天氣の良い日出かけて行つた、二人の愛情がさうさせたばかりでなく、その方が、町の人達もよろこんだのである。

二人は幸福であつた。二人は町の人達から可愛がられるお禮に、町の子供を免倒見た、子供が河に溺れかけた時、女はその子供を助けた、これが町の人だちの感情をわかせた、二人は一さう町の人々から可愛がられたのであつた。

三

とつてもいゝが、

ひろつてはいけない。

ひろひもののうちには、時々惡魔のおとしものがある。

ある日女は渡の近くで金の指輪をひろつた、女はそれを自分の指にいれてみた、と、それが自分のためにつくられたもの、やうに、しつかり指にくひこんだ。

女は手をかざして見た、指輪は光をうけて眩しく彼女の眼を射た、その時彼女は、過ぎ去つた日夢にみた、ある感情を思出したのである。

男が地に返せと言つたのが、彼女の反抗心を呼んだ、彼女は強い言葉でそれにさからつた、拾つたものは自分の所有物だと言つた。

彼女は邪智のふくんだ微笑をうかべて、自分の手をかざして見た、すると、男は過ぎ去つた日夢にみたある感情を思ひ出した——男は指輪を賣つて金にしろと言ひ出したのである。

女はあくまで抗つた、終に男は手をふりあげた、蹴つた、女はその足に噛りついて行つた。

はげしい爭ひの後には平和がくる——がこの眞理は二人にはあてはまらなかつた、なぜなら、女の指に堅く金の指輪がくひこんでゐたから。

二人は別れてしまつた。北と南に。

河を隔てて——。

一本の途は南へ南へと走つてゐる。

一本の途は北へ北へと走つてゐる。

二本の途の交りは渡より外にない。

二人が一つになるには引返すより外にすべがない、金の指輪がくひこんでゐる彼女の指をきりとつて——。

原稿募集

【論　文】十五枚位（四百字詰）
【時事批判】長短隨意
【創　作】二十枚位（同　前）
【感想文】詩歌、其他飜譯など

締切（毎月五日）

宛名は、職業婦人社内
「婦人と勞働」編輯部へ

▲編輯室より▼

□ま夏の感じが日毎に濃くなつてきました。醱熱の襲來はバラックのトタン屋根を聯想させます。

□貧民窟には、歴々慈善、救濟事業の名の下にやんごとなき貴婦人方の御見舞をうけますが、どれ程の効果があつたかお訊きし度いものです。依然として勞働者は自分自身ボロをまとつて、絹やビロードを織つてゐます。理想はいくら高くてもいゝでせうが、周圍と共に脚下を凝視して戴き度いものです。

□本誌のために、何時も寄稿して下さる諸氏には編輯者の深く敬謝いたすところでございます。私共は、平易であつて事實を基礎とした通俗的のものを喜びます。各地方の婦人の位置、生活狀態、又は工場生活、罷工の經過等、何なりお知らせ下されば幸です。

□去る日女敎員大會が開催された際、わが社で女敎員諸姉へ差上た刷物の殘部がございますから、讀者の皆さんにお頒けします。お望みの方は御遠慮なく申出て下さい。

□會務の專任がこれまで無かつたものですから、雜誌發送の上に大分重複もあり、申わけのない手落ちもあらうと考へられます。これから充分整理して遺憾のないやうに心掛けますが、あなた方に於ても、お心附の點は至急御知らせ下さい。

□夏休みま近になつたので、みなさん方でもそれぞれ樂しい御計畫がお有りの事と思ひます、地方から東京にお出掛の方々はきつと職業婦人社へも遊びに來て下さい。總選擧當時、戸別訪問をやる、候補者が一軒につき四度叩頭をするとして、全體で何萬遍の叩頭をする勘定になるだらうなどゝいらぬ心配をしたりしてゐたものですが、みなさんのお心添と私たち同志の熱心とで、一ケ年に何千人、何萬人の婦人と握手を交はすことが出來るものでありませうか。三千五百萬人のわが婦人たちへ、さあ、握手をしませう。

〇〇〇

□お詫び――前月號からの靑野季吉氏の論文を編輯部の不仕末で紛失してしまひました。筆者並びに讀者にお詫びします。（係）

定價		
一部	金三十錢	郵税五厘
半ケ年	金一圓八十錢	不要
一ケ年	金三圓六十錢	不要

廣告料		
特等	一頁	四十圓
一等	一頁	三十圓
二等	一頁	二十圓
	半頁	十圓

四回以上割引あり

御注文は總て前金で願ひます。
御送金は振替に御拂込み下さい。
郵券代用の際は一割增の事（五厘切手にて）
誌代の領收書は別に差上げません
雜誌發送を以つてこれにかへます

大正十三年六月廿八日印刷納本　第二卷
大正十三年七月一日發行　第四號

編輯發行兼印刷人　東京市外巢鴨町一〇一九　奥むめお
印刷所　東京市外下澁谷五三三　弘榮社
發行所　東京市外巢鴨町一〇一九　「婦人と勞働」職業婦人社
電話牛込二四四八番
振替東京六四一六〇

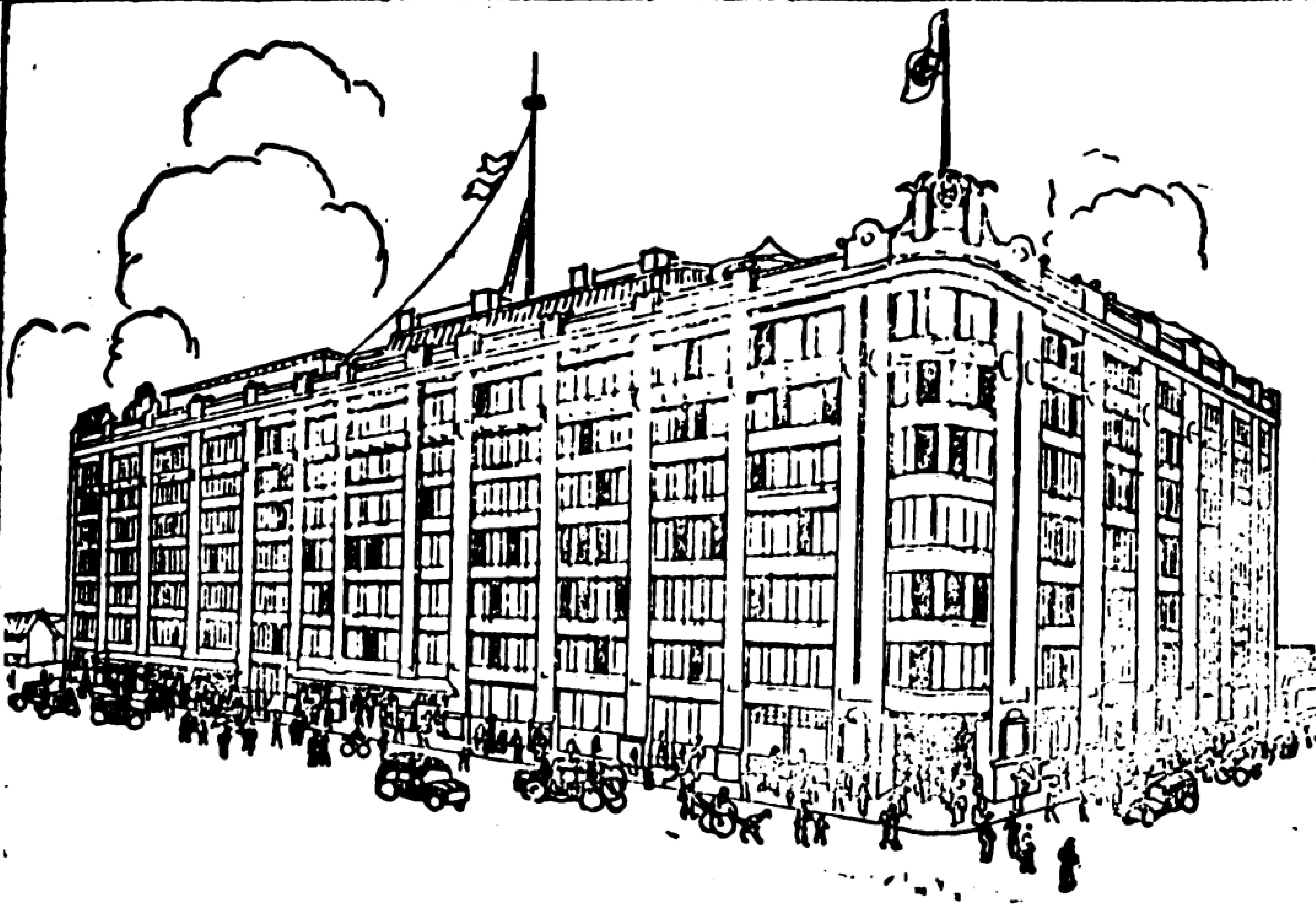
ヤマサ醤油のおすゝめ

料理の秘訣は

お味のつけ方！

良いお醤油の御使用が

一番肝要であります



三つの優越點と三つの誇りと

三越の商品は、品質の優良さ、量の正確さ、そして値段の低廉さといふ三つのいつも變らぬ優越した點を持つてをりますのみならず、常に斬新さ、實用さ、趣味の三つの特長を誇りと致してをります　何卒十分御吟味の上多少に拘らず御用命の程偏に希上ます、

◇地方よりの御註文は御手紙にて「通信販賣部」宛に願ひます。叮嚀迅速に御調達申上けます。

大阪

三越呉服店